

本文

【白文】

①杞国有_レ人、憂_二天地崩墜、身亡_二所_レ寄、廢_二寢食_一者。
 又有_下憂_二彼之所_レ憂者_上、因往曉_レ之、曰、
 「_②天、積氣耳。亡_二処亡_二氣_一。若屈伸呼吸、終日在天中_二行止_一。_③奈何憂_二崩墜_一乎。」
 其人曰、「天果積氣、日月星宿、不_レ当_レ墜邪。」
 曉_レ之者曰、「日月星宿、亦積氣中之有_二光耀_一者。只使墜、亦不_レ能_レ有_レ所_二中傷_一。」
 其人曰、「奈_二地壞_一何。」
 曉者曰、「地、積塊耳。充塞_二四虚_一、亡_二処亡_二塊_一。若躇步跼蹐、終日在地上_二行止_一。奈何憂其壞。」
 其人舍然大喜。曉_レ之者亦舍然大喜。

【書き下し文】

杞国に人有り、天地の崩墜（ほうついで）して、身の寄する所亡（な）きを憂へ、寢食を廢する者あり。
 又た彼の憂ふる所を憂ふる者有り、因りて往きて之を曉（さと）して曰はく、
 「天は、積氣のみ。処として氣亡きは亡し。若（なんぢ）の屈伸呼吸するがごとき、終日天中に在りて行止す。奈何（いかん）ぞ崩墜を憂へんや。」と。
 其の人曰はく、「天、果たして積氣ならば、日月星宿、当に墜つべからざらんや。」と。
 之を曉す者曰はく、「日月星宿も、亦た積氣の中の光耀（くわうえう）有る者なり。只（た）だ墜つるとも、亦た中傷する所有る能はず。」と。
 其の人曰はく、「地の壞（やぶ）るるを奈何（いかん）せん。」と。
 曉す者曰はく、「地は、積塊のみ。四虚に充塞し、処として塊（つちくれ）亡きは亡し。若の躇步跼蹐（ち

よほしたう) するがごとき、終日地上に在りて行止す。奈何ぞ其の壊るるを憂へん。」と。
其の人舎然(しやくぜん)として大いに喜び、之を暁す者も亦た舎然として大いに喜び。

【注】

- ・杞国…周代の小国。
- ・崩墜…崩れ落ちること。
- ・身の寄する所亡し…身を置く場所がなくなる。
- ・廃寝食…寝ることも食べることもやめてしまう。
- ・暁す…道理を説いて分からせる。さとす。
- ・積氣…気の積み重なったもの。
- ・若…なんじ。あなた。
- ・屈伸呼吸…体を曲げ伸ばししたり息をしたりすること。
- ・行止…動いたり止まったりして暮らす。
- ・奈何…どうして。なんとして。
- ・日月星宿…太陽・月・星々。
- ・光耀…光り輝くもの。
- ・中傷…当たって傷つける。
- ・積塊…土くれの積み重なったもの。
- ・四虚…四方のあらゆる空間。
- ・充塞…すきまなく満ちふさがる。
- ・蹠歩跣蹈…歩いたり踏みつけたりすること。
- ・舎然…わだかまりが解けてすっきりするさま。

設問

- 傍線部①「杞国有入、憂天地崩墜、身亡所寄、廃寝食者」を書き下し文に改めよ。
- 傍線部②「天、積氣耳。亡処亡氣」を書き下し文に改めよ。
- 傍線部②「亡処亡氣」の「亡」と同じ意味・用法のものを、本文中からもう一つ抜き出せ。
- 傍線部③「奈何憂崩墜乎」を書き下し文に改めよ。
- 「奈何憂崩墜乎」「奈地壊何」に共通して用いられている、疑問・反語を表す句法を何というか。「奈何(いかん)」の形をふまえて説明せよ。
- 「只使墜、亦不能有所中傷」の「使」のはたらきとして最も適切なものを次から選べ。
 - ア 使役(…させる)
 - イ 仮定(たとえ…としても)
 - ウ 命令(…せよ)
 - エ 比較(…より)
- 「杞国に人有り、天地の崩墜して、身の寄する所亡きを憂へ、寝食を廃する者あり」を現代語訳せよ。
- 「因りて往きて之を暁して曰はく」を現代語訳せよ。

9. 杞の国の人を「暁す者」は、「天」とはどのようなものだと説明しているか。本文に即して答えよ。
10. 「暁す者」は、もし日月星宿が落ちてきたとしてもどうなると言っているか。本文に即して答えよ。
11. 「暁す者」は、「地」とはどのようなものだと説明しているか。本文に即して答えよ。
12. 「奈何ぞ崩墜を憂へんや」を現代語訳せよ。
13. 「其の人舎然として大いに喜び」を現代語訳せよ。
14. 次の語の本文中での意味を答えよ。
- (1) 崩墜
 - (2) 廢寢食
 - (3) 暁（之を暁す、の「暁」）
 - (4) 若（屈伸呼吸、の前の「若」）
 - (5) 舎然
15. 杞の国的人是、何を心配して寢食もやめてしまったのか。本文に即して説明せよ。
16. 杞の国の人が次に心配したことは何か。本文の語句を用いて答えよ。
17. 本文の結末で、杞の国の人と暁す者は最終的にどうなったか。書きなさい。
18. 故事成語「杞憂」の意味を答えよ。
19. 「杞憂」の出典となった書物の名を答えよ。また、それは何という思想（学派）に分類される書物が答えよ。
20. この話から導かれる教訓として最も適当なものを次から選べ。
- ア 起こるはずのない事をあれこれ心配するのは無益である。
 - イ 天変地異には日頃から備えておくべきである。
 - ウ 人の心配事は他人にはわからないものである。
 - エ 学問を究めれば自然の理がすべてわかる。
21. 「杞憂」を使った短文を一つ作りなさい。（成語の意味が正しく伝わるように用いること）



答え合わせはこちら